

日本学術会議第三部 分野別委員会の組織と体制

(2009年7月15日現在)

1 分野別委員会名		化学委員会	
分野の活動方針	基礎化学及び応用化学等の化学関連分野で学術を推進するための産学官連携の新たなパラダイムを構築すると共に、学術研究の一層の推進、若手の育成、男女共同参画、環境安全、教育、社会連携などに関して具体的な提案をできるように討論していく。化学分野の国際的な研究教育協力を支援する。		
委員会の組織方針・基本的役割	化学委員会は、委員長以外に役員として、副委員長1人、幹事2人を置き、機動性の高い執行部の役割を果す。企画分科会は、委員会全体の具体的な活動方針を決める。IUPAC分科会とIUCr分科会は、各々国際研究協力事業のIUPAC及びIUCrの活動に関して具体的な決定を行う。		
委員会委員	(委員:10名) 藤嶋 昭、玉尾 皓平、澤本 光男、新海 征治、今榮 東洋子、 岩澤 康裕、柏 典夫、栗原 和枝、黒田 玲子、巽 和行		委員長:藤嶋 昭 副委員長:玉尾 皓平 幹事:新海 征治 幹事:澤本 光男
分科会の設置方針・基本的役割	化学委員会は大人数であり、委員会を毎々開催する事が不可能であるので、化学委員会としての意思決定を規定に従って迅速に行うため、企画分科会を設置する。IUPACとIUCrという国際協力事業に対しては、各々に分科会を設置し、その会の規程にしたがって諸活動の内容を決める。この他に課題をもつ分科会をいくつか発足させ、計画の実行を担う。		
2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間	分科会等委員	役員等
化学企画分科会	化学委員会は大人数で全体会議の開催が困難であるため、諸活動の具体的決定を迅速に行うために設置。本分科会は会員と若干名の連携会員で構成し、臨機応変に会を開催できる体制をとる。本分科会の決定を化学委員会の決定とみなし、化学委員会が活動を機動性に富むものにする。	(委員:21名) 藤嶋 昭、玉尾 皓平、 澤本 光男、新海 征治、 今榮 東洋子、岩澤 康裕、 柏 典夫、栗原 和枝、 黒田 玲子、巽 和行、 北川 禎三、田中 晃二、 岡本 佳男、橋本 和仁、 澤田 嗣郎、青山 安宏、 架谷 昌信、野依 良治、 高原 淳、山本 嘉則、 菅原 正	委員長:藤嶋 昭 副委員長:玉尾 皓平 幹事:新海 征治 幹事:澤本 光男
	平成20年10月1日～平成23年9月30日		
化学の教育・啓発活動分科会	小学校、中学校、高等学校や高等専門学校を含めて、充実した青少年の理科教育、特に化学教育を行うための方策を検討し、実施する。また一般の方々に対する化学の啓発活動を行うための方策を討論し、実施する。	(委員:13名) 藤嶋 昭、伊藤 卓、 井上 晴夫、玉尾 皓平、 梅澤 喜夫、荻野 博、 大野 公一、茅 幸二、 斎藤 清機、相馬 芳枝、 竜田 邦明、寺嶋 正秀、 濱口 宏夫	委員長:藤嶋 昭 幹事:伊藤 卓 幹事:井上 晴夫
	平成20年10月1日～平成23年9月30日		

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間	分科会等委員	役員等
我が国の魅力ある 大学等の研究教育 基盤の将来像検討 分科会	我が国が真に知的創造性と文化的資産を持った先進国として今後も世界の尊敬を受ける地位を築き、同時に人類の持続的発展に貢献する上で、大学および大学共同利用機関の果たす役割は大きく、そのための世界レベルの研究教育基盤の整備が急務である。研究教育基盤の整備については、今後50年の発展をにらんだ国際水準のグローバル化と新パラダイム構築を視野に入れて、我が国の基盤整備の標準化を設定しなおす必要がある。 特に、有限な地球上の人類が未だ解決策を見いだせない複合的要因を内包した環境・資源・エネルギー問題は、従来の考えと異なる革新的な学術の発展を必要としており、その実現には、魅力ある研究環境を基盤とする幅広い観点からの大学・大学院人材育成プログラムが必要であり大学院教育の改革が不可欠である。国際的に活躍できる能力を備えた人材や、融合的新分野を創出する人材育成のための魅力ある研究教育基盤を如何に作るかが緊急の課題となっている。研究教育基盤の将来像を討議し提言する。 平成20年11月27日～平成23年9月30日	(委員:13名) 岩澤 康裕、村井 眞二、 田中 晃二、渡辺 芳人、 青山 安宏、川合 知二、 小池 康博、菅原 正、 鈴木 孝治、谷口 功、 成田 吉徳、西川 恵子、 原田 明	委員長:岩澤 康裕 副委員長:村井 眞二 幹事:田中 晃二 幹事:渡辺 芳人
高度人材育成と国際化に関する検討 分科会	大学重点化、研究の国際化や高度化に伴ない、次世代を担う人材育成の中心は大学院に移行しつつあり、少子化、理工系離れという社会現象も考慮されるべき時に来ているため、21世紀における大学院教育のあるべき姿について審議する。 平成20年11月27日～平成23年9月30日	(委員:25名) 新海 征治、福住 俊一、 加藤 昌子、中村 栄一、 岩澤 康裕、相田 卓三、 青山 安宏、魚崎 浩平、 岡畑 恵雄、川口 春馬、 川合 真紀、北川 進、 小林 昭子、小松 紘一、 齋藤 軍治、竹内 孝江、 辻井 薫、中西 八郎、 檜山 爲次郎、平尾 公彦、 村橋 俊一、山下 正廣、 渡辺 政廣、府川 伊三郎、 出口 尚安	委員長:新海 征治 副委員長:福住 俊一 幹事:加藤 昌子 幹事:中村 栄一

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間	分科会等委員	役員等
化学者コミュニティ 連携強化検討分科会	直面する深刻な課題解決など、高まりつつある社会の化学に対する大きな期待を踏まえて、学術会議と産業界の連携の強化について討議する。 平成21年1月22日～平成23年9月30日	(委員:21名) 柏 典夫、原口 紘き、 大部 一夫、土肥 義治、 新井 邦夫、石田 英之、 石谷 炯、磯部 稔、 井上 俊英、今成 真、 植 嘉 陸男、臼杵 有光、 岡本 佳男、小久見 善八、 尾嶋 正治、木村 良晴、 小林 猛、篠原 久典、 中井 武、架谷 昌信、 御園生 誠	委員長:柏 典夫 副委員長:原口 紘き 幹事:大部 一夫 幹事:土肥 義治
アジア化学戦略の 統括的検討分科会	アジア特に東アジア諸国に於ける科学関連分野の発展への努力とその進展は目覚ましい。そのような状況に於いて、日本はアジア諸国との連携と協力が必要であり、そのあり方の検討が望まれる。アジア諸国が共に発展するために、アジアに於ける化学に関連する諸分野の現状と問題点を把握し、化学に関連してアジア諸国との相互理解と交流を図り、化学研究を共に推進するにあたり、日本がどのような戦略を発するかについてその方策を検討することがこの分科会の設置の目的である。 平成20年11月27日～平成23年9月30日	(委員:16名) 今 榮 東洋子、栗原 和枝、 魚崎 浩平、榎 敏明、 川口 春馬、鯉沼 秀臣、 高原 淳、中嶋 敦、 架谷 昌信、橋本 和仁、 増原 宏、八島 栄次、 山下 正廣、山内 薫、 吉原 經太郎、和田 芳直	委員長:今 榮 東洋子 副委員長:榎 敏明 幹事:高原 淳 幹事:八島 栄次
物理化学・生物物理 化学分科会	一般物理化学及び生物にかかわる物理化学の諸問題を審議の対象とし、生物情報の分子論や情報伝達機構の構造化学など、化学を基礎に生命を理解するサイエンスの最前線に関する研究会も企画して、化学の発展について考える。 平成20年10月1日～平成23年9月30日	(委員:18名) 北川 禎三、栗原 和枝、 寺嶋 正秀、中嶋 敦、 岩澤 康裕、黒田 玲子、 石谷 炯、魚崎 浩平、 榎 敏明、大野 公一、 川合 真紀、西川 恵子、 濱口 宏夫、平尾 公彦、 増原 宏、山内 薫、 吉原 經太郎、茅 幸二	委員長:北川 禎三 副委員長:栗原 和枝 幹事:寺嶋 正秀 幹事:中嶋 敦
無機化学分科会	金属イオンが関与する分子の合成やその機能にかかわる化学の諸問題を審議する。 平成20年10月1日～平成23年9月30日	(委員:9名) 田中 晃二、福住 俊一、 加藤 昌子、谷口 功、 巽 和行、伊藤 卓、 荻野 博、北川 進、 山下 正廣	委員長:田中 晃二 副委員長:福住 俊一 幹事:谷口 功 幹事:加藤 昌子

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間	分科会等委員	役員等
有機化学分科会	有機化学を通じて、有機化学が関係する広い化学、物理、および生物の分野において、学術の進展をはかり、もって科学と社会の健全な発展に貢献する。 平成20年10月1日～平成23年9月30日	(委員:15名) 山本 嘉則、檜山 爲次郎、 小松 紘一、斎藤 清機、 玉尾 皓平、入江 正浩、 岩村 秀、植島 陸男、 菅原 正、相馬 芳枝、 竜田 邦明、中井 武、 中村 栄一、村井 眞二、 村橋 俊一	委員長:山本 嘉則 副委員長:檜山 爲次郎 幹事:小松 紘一 幹事:斎藤 清機
高分子化学分科会	高分子化学の発展と社会への貢献のために必要な施策の提言、高分子化学の抱える諸問題の分析とその解決のための方針の提起、国際的な研究交流の推進などについて審議する。 平成20年11月27日～平成23年9月30日	(委員:15名) 岡本 佳男、澤本 光男、 臼杵 有光、高原 淳、 今榮東洋子、柏 典夫、 栗原 和枝、相田 卓三、 井上 俊英、川口 春馬、 木村 良晴、小池 康博、 土肥 義治、原田 明、 八島 栄次	委員長:岡本 佳男 副委員長:澤本 光男 幹事:臼杵 有光 幹事:高原 淳
材料化学分科会	種々の学会にまたがる材料化学研究者間の情報交換、社会への貢献のために必要な施策の提言、材料化学の抱える諸問題の分析とその解決のための方針の提起、国際的な研究交流の推進などについて審議する。 平成20年11月27日～平成23年9月30日	(委員:16名) 橋本 和仁、山下 正廣、 渡辺 政廣、藤嶋 昭、 澤本 光男、今榮 東洋子、 板谷 謹悟、井上 晴夫、 大部 一夫、小久見 善八、 斎藤 軍治、篠原 久典、 辻井 薫、御園生 誠、 菅原 正、鯉沼 秀臣	委員長:橋本 和仁 幹事:山下 正廣 幹事:渡辺 政廣
分析化学分科会	分析化学を中心にした諸問題について審議、分析化学分野のさらなる発展のための研究体制や教育プログラムの検討を行う。 平成20年10月1日～平成23年9月30日	(委員:9名) 澤田 嗣郎、梅澤 喜夫、 石田 英之、鈴木 孝治、 尾嶋 正治、竹内 孝江、 二瓶 好正、原口 紘き、 和田 芳直	委員長:澤田 嗣郎 副委員長:梅澤 喜夫 幹事:石田 英之 幹事:鈴木 孝治
結晶学分科会 (物理学委員会合同)	結晶学の進展の方向を検討して有効な方策を立てる。 平成20年10月1日～平成23年9月30日	(委員:16名) 菅原 正、秋光 純、 高原 淳、栗原 和枝、 黒田 玲子、飯島 澄男、 板谷 謹悟、入江 正浩、 大橋 裕二、小林 昭子、 壽榮松 宏仁、中西 八郎、 山縣 ゆり子、早稲田 嘉夫、 柿本 浩一、藤井 保彦	<化学委員会> 委員長:菅原 正 副委員長:秋光 純 幹事:高原 淳
生体関連化学分科会	日本の化学の発展の歴史にもとづく専門分野分類である生物無機化学、生物有機化学、バイオメティックケミストリー、健康化学、ドラッグデザイン、バイオナノサイエンスと分類される分野の集合体として、化学全般に関する問題意識を探る。 平成20年10月1日～平成23年9月30日	(委員:8名) 青山 安宏、成田 吉徳、 渡辺 芳人、新海 征治、 栗原 和枝、岡畑 恵雄、 川合 知二、原田 明	委員長:青山 安宏 副委員長:成田 吉徳 幹事:渡辺 芳人

2 分科会等名称	目的・活動方針 ・設置期間	分科会等委員	役員等
化学工学・触媒工 学分科会 (総合工学委員会、 材料工学委員会合 同)	化学技術と関連する基盤工学分野を通 して、21世紀のわが国社会における産 業イノベーション、環境共生型持続的社 会形成、新エネルギーを含む長期安定 型エネルギープラットホームの構築、化 学物質の安全性確保等の諸問題を継続 的に審議し、化学技術の適正な発展を 計るとともに、提言等を内外に発信す る。 平成21年2月26日～平成23年9月30日	(委員:14名) 架谷 昌信、今成 真、 新井 邦夫、小林 猛、 岩澤 康裕、浅井 滋生、 植畠 陸男、柏木 孝夫、 梶山 千里、小宮山 宏、 野依 良治、古崎 新太郎、 御園生 誠、山本 一良	委員長:架谷 昌信 副委員長:今成 真 幹事:新井 邦夫 幹事:小林 猛
IUPAC分科会	IUPACの活動を支援すると共に、IUPAC 主催の国際会議、各分科会委員会への 派遣者等、具体的な活動の詳細を決定 する。またIUPACに対する日本の長期的 戦略を決める。 平成20年10月1日～平成23年9月30日	(委員:13名) 巽 和行、黒田 玲子、 山内 薫、鎌田 正裕、 藤嶋 昭、澤本 光男、 北川 禎三、岩村 秀、 荻野 博、磯部 稔、 石谷 炯、伊藤 真人、 石田 英之	委員長:巽 和行 副委員長:黒田 玲子 幹事:山内 薫 幹事:鎌田 正裕
IUCr分科会	IUCr主催の国際会議、各委員会への派 遣者等、具体的な活動の詳細を決定す る。IUCrに対する日本の長期的活動方 針案を決める。 平成20年10月1日～平成23年9月30日	(委員:7名) 栗原 和枝、高原 淳、 甲斐 泰、大橋 裕二、 大嶋 建一、大鉢 忠、 若槻 壮市	委員長:栗原 和枝 副委員長:高原 淳 幹事:甲斐 泰
今後の 分科会設置方針等			
当面予定している 具体的活動			